

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》 長谷川純子 小島悟 岩部達也 大内みふか 佐藤一成 鈴木伸弥 多田菊代 山根裕司

【概要】

評価は、効果的な理学療法を実施するうえできわめて重要な理学療法プロセスに位置づけられる。本科目では、評価の意義や目的、その一連の進め方（情報収集、記録、結果の統合と解釈、再評価まで）について学習する。また、理学療法における基本的検査・測定技術である形態計測法、関節可動域測定法、筋力測定法、痛みの評価について講義および演習を通して習得する。

【学習目標】

理学療法評価における各種検査・測定手技（形態計測、関節可動域測定、徒手筋力法、痛みの評価）を学び、その基本的手技を実施できるようになる。

1. 理学療法における評価の意義と目的を説明できる。
2. 対象者からの医療情報を収集できる。
3. 形態計測の目的を説明し、基本的手技を実施できる。
4. 関節可動域測定法の目的を説明し、基本的手技を実施できる。
5. 筋力測定法の目的を説明し、基本的手技を実施できる。
6. 痛みの種類を理解してその評価を実施できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	オリエンテーションおよび評価学概論	本授業の概要、学習目標・内容、スケジュール、学習方法の説明、評価とは	長谷川純子
2	一般的評価事項	問診	長谷川純子 大内みふか
3) 5	形態計測	身長、体重、体格指数、四肢長、周径の計測	担当者全員
6) 14	関節可動域測定	関節可動域測定	担当者全員
15) 16	総合演習1	形態計測および関節可動域測定に関する確認を行う（実技テストあり）	担当者全員
17	痛みの評価	痛みの分類、各種痛みの評価法	大内みふか
18) 28	徒手筋力測定法	徒手筋力測定法	担当者全員
29) 30	総合演習2	徒手筋力測定法に関する確認を行う（実技テストあり）	担当者全員

【評価方法】

筆記試験50%

実技テスト40%

平常点10%

筆記試験については、試験実施後、問い合わせがあった際には模範解答を開示する。

実技試験については、試験実施後、結果を各自にフィードバックする。

平常点はシラバスに示す「学習の準備」の実施状況および授業態度で評価する。

【備考】

教科書：松澤正 他 著 「理学療法評価学」 金原出版 2012年

津山直一 他 訳 「新・徒手筋力検査法 原著第8版」 協同医書出版 2011年

参考書 : なし

その他 : 実習で使用するため、メジャーを購入すること。

【学習の準備】

予習は、授業内容に必要な解剖学および運動学に関する知識の復習と、各検査手技の動画の確認である(80分)。
復習は、授業で習った実技に関する練習を行うこと(80分)。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

(DP3)理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

長谷川純子(理学療法士) 小島悟(理学療法士) 岩部達也(理学療法士) 大内みづか(理学療法士) 佐藤一成(理学療法士) 鈴木伸弥(理学療法士) 多田菊代(理学療法士) 山根裕司(理学療法士)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、理学療法プロセスの基礎となる評価の方法について、基本的知識の講義及び実技を指導する。